

基本計画シート			分類	Ⅰ－③、Ⅱ－③、Ⅳ－①		
課題No.	総合課題－ 2		課題名	安定供給できるユズ産地の維持・拡大		
対象	JA 高知市土佐山柚子生産組合			実施期間	平成 2 9 ～ 3 1 年	
課題設定の背景とねらい						
【背景】						
JA 高知市土佐山柚子生産組合は、栽培技術の向上や優良系統選抜などに生産組合が一丸となって取り組み、青果出荷販売を中心として販売額を伸ばしてきた。現在は、青果販売は減少したものの、大手取引先への酢玉の販売が堅調なことから、平成 27 年産で生産者 201 戸、栽培面積 59ha、生産量 1,072t、1 億 3 千万円を超える産地に成長した。						
しかし、近年、老木化や隔年結果が激しく、安定した生産が難しくなっている。加えて、生産者の平均年齢が 65 歳と高齢化もすすんでおり、労働力、担い手の不足が顕著になってきた。また、生産者の大半が兼業農家で栽培面積が少ないうえ青果の出荷が少なく、ユズだけでは収益があがらず農業経営が不安定である。さらに、幹腐病や黒点病が多発し、収量・品質が低下している。						
そこで、上記の問題点を克服するために、昨年度、作成された高知市ユズ産地構造改革計画に基づき、取引先とのパートナーシップを堅持するための原材料の安定供給や中山間複合経営拠点として位置づけられた夢産地とさやま開発公社との連携等による産地を支える生産基盤の体制の構築を行う。						
【ねらい】						
大口取引先に原材料を安定供給できるユズ産地の維持・拡大						
対象の概要と問題点及びあるべき姿						
1 対象の概要・問題点						
年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
生産量 (t)	955	632	1,072	1,087	732	654
面積 (ha)	56	57	59	59	60	60
生産戸数(戸)	188	188	201	201	204	204
<問題点>						
・老木樹の増加や隔年結果等により生産量が不安定。						
・高齢化による労働力、担い手不足により産地維持が脆弱。						
・酢玉中心の生産となり収益があがらず農業経営が不安定。						
老木化 樹齢 31 年以上の樹が 25%以上 隔年結果の顕在化 平均値と年次増減 高齢化 71 歳以上が 4 割近く						
2 目標年次の姿（目指すべき姿）						
・大口取引先とのパートナーシップを堅持するため、安定的に原材料を供給出来る産地となる。						
・安定生産のために、新植・改植による生産面積の拡大と隔年結果を是正する栽培技術の向上が図れる。						
・生産基盤を維持するため、担い手の確保・育成と労働力補完の仕組みづくりができる。						
・省力化を図りながら、高品質生産（青果・酢玉A出荷の割合の増）を行う。（棘無しユズの導入等を含む）						

普及事項	取り組み期間と到達目標				
	評価項目	実施前	H29 年度	H30 年度	H31 年度
1 安定生産	面積 (ha)	59	61 (60)	62 (60)	63
	生産量(t)	1,087	1,000 (732)	1,050 (654)	1,100
	販売額	1.3 億円	1.4 億 (1.3 億円)	1.6 億円 (1.5 億円 [※])	1.9 億円
	(1) 新植・改植による生産面積の拡大	2.25	2.5 (3.3)	2.5 (2.2)	2.5
	(2) 隔年結果の是正 ・ 兼業農家等への栽培管理の徹底	3	6 (6)	6 (5)	6
	現地検討会参加人数			136	150
2 生産基盤の維持					
(1) 担い手の確保・育成 ・ 産地提案型の受入れ体制づくりの支援	新規就農者数	0	0 (0)	1 (0)	2
	産地提案書作成	なし	検討 (作成)	運用 (運用)	見直し
	指導農業士等 研修受け皿数	0	1 (2)	3 (3)	3
(2) 労働力の確保 ・ JA 無料職業紹介所等のユズ農作業受託組織の活用	活用農家戸数	10	15 (7)	20	25
	活用ヘルパー数		21	20 (27)	30
3 収益性の高いユズづくり					
(1) 省力化技術の確立 ・ 省防除 14 回⇒9 回／年の技術確立。 ・ 新たな営農技術体系計画の作成	技術の確立と普及	未確立	確立 (未確立)	確立 (未確立)	普及戸数 10 戸 作成
	計画の作成	未作成			
(2) 高品質の推進 ・ 青果・酢玉 A 出荷への誘導 ・ 棘無しユズの導入	青果出荷農家数(戸)	17	22 (17)	24 (14)	26
	酢玉 A 生産割合(%)	15	20 (14)	20 (10)	25
	母樹用苗生産本数	生育調査	生育品質 調査 (生育調査)	品質調査 (品質調査)	母樹用苗 20 本

※販売額は平成 30 年度は確定できていない

コメント 1 405043
H30 JA を通じたマッチング 15 名＋過去にマッチングされ継続雇用されているヘルパー数 12 名 = 27 名

年度シート その1

課題No	総合課題ー2	課題名	安定供給できるユズ産地の維持・拡大	
対象	JA 高知市土佐山柚子生産組合	担当・チーム員	○伊藤、森永、小笠原、小西	

〈これまでの進捗状況〉

これまで、新植・改植をすすめてきて、わずかではあるが、栽培面積は微増している。近年、隔年結果が激しく生産が不安定なうえ、天候不順などで十分な栽培管理が出来にくい状況で青果出荷が減少してきている。そこで、農薬散布回数を減らす省力化を図りながら、青果・酢玉Aを増加させる技術で農業所得の向上に取り組んできたが確立までには至っていない。

一方、担い手対策として指導農業者が3名認定され、産地提案書も整備され、新規就農者の受入体制は整った。また、労働力確保対策ではJA無料職業紹介所を活用し、27名のヘルパーに主にユズの収穫作業を担ってもらった。また、平成29年度から草刈りや剪定作業などの知識・技術を要する作業を請け負う集団を、「ゆずバトン隊」と位置づけ取り組んできた。さらに、平成30年度には林業従事者を勧誘し、JA無料職業紹介所に登録することができた。

JA 無料職業紹介所登録

ゆずバトン隊
(草刈り・剪定作業)

〈対象の概要〉

高知市土佐山地区でのユズの生産量（酢玉用）は平成30年産で654tである。（生産者204戸、栽培面積60ha）

〈現状の課題と問題点〉

この地区では平成20年より隔年結果が激しく、大口の取引先への安定供給ができていない。また、高樹齢化と高齢化が進んでおり、樹の若返り、担い手の確保・育成と労働力確保など生産基盤の維持が求められている。そして、青果・酢玉A出荷を目指した農業経営の安定化も求められている。

〈あるべき姿と推進方向〉

- ・大口取引先とのパートナーシップを堅持するため、安定的に供給できる産地。
→新植・改植による生産面積の拡大。
- ・安定生産のために、隔年結果を是正する栽培技術の向上。
→定期的な現地検討会や技術情報誌等による安定生産のための栽培技術情報の提供。
- ・担い手の確保・育成と労働力確保による生産基盤の維持。
→産地提案型による新規就農者の育成、JA 無料職業紹介所を活用した十分な労働力確保。
- ・収益性の高いユズづくりによる経営安定。
→ドローン等新技術を活用した省防除技術の確立や棘無しユズの導入による省力化技術の確立及び高品質の推進。

生産量(t) 栽培面積

栽培面積(ha) 生産量(t)

年	栽培面積(ha)	生産量(t)
2010	52	750
2011	57	1250
2012	56	850
2013	57	950
2014	58	650
2015	58	950
2016	59	750
2017	59	1050
2018	58	1050
2019	60	850
2020	61	750

普及事項	1 安定生産 (1) 新植・改植による生産面積の拡大 優良系統の導入 (2) 隔年結果を是正する栽培管理の徹底 隔年結果の是正			2 生産基盤の維持 (1) 担い手の確保・育成 産地提案型の受入れ体制づくりの支援 (2) 労働力の確保 JA 無料職業紹介所等のユズ農作業受託組織の活用		
	評価指標	現状	目標	評価指標	現状	目標
	面積 (ha)	60	63	(1)新規就農者数	0	2
	生産量(t)	654	1,100	産地提案書	運用	見直し
	販売額	1.5 億円	1.9 億円	(2)活用ヘルパー数	27	30
	(1)新植・改植面積	2.2ha	2.5ha			
担当		伊藤、森永		小西、小笠原		
時期		計画		計画		
第1 四半期	4 月	(1)果樹経営支援事業活用による新植・改植の誘導・事業申請説明(役員会 部会 4～6月) 新植園の幼木調査(チーム会 4～6月) (2)病虫害防除に関する技術情報誌の作成・配布(チーム会 4～6月)		(1)年間活動計画協議、産地提案書見直しの検討と見直し(役員会、チーム会 4～6月) 新規就農者への支援(個別面談等 4～6月) (2)計画検討(労働力各対策PT会 4月) 前年度実績の確認(農家への聞き取り 6月) 「ゆずバトン隊」への技術習得(刈払機取扱研修 6月)		
	7 月	(1)施肥に関する技術情報誌の作成・配布(チーム会 7～9月) 果樹経営支援事業活用による新植・改植の誘導・事業申請書作成支援(部会 7～9月) (2)栽培状況の調査(現地調査 7～9月) 他産地導入技術等情報収集(先進地視察 8月) 病虫害防除等技術講習(中央研修会 9月)		(1)新規就農者への支援(個別面談等、7～9月) 担い手募集活動(就農相談会 7、8月) 担い手募集活動の結果分析と報告(役員会等 9月) (2)マッチングの検証(システム検証、7月) ユズヘルパーの募集(ユズだより、広報誌、チラシ配布 9月)		
第3 四	10 月	(1)収穫に関する技術情報誌の作成・配布(チーム会 10～12月)		(1)担い手募集活動(就農相談会 12月) 担い手募集活動の結果報告		

半 期	12 月	果樹経営支援事業活用による新植・改植 の誘導・事業申請支援（個別 10～12 月） (2)収量予測と出荷実績の把握 （チーム会 10～12 月）	（チーム会・役員会 10 月） (2)ユズヘルパーの募集 （チラシ配布 10～11 月）
第 4 四 半 期	1 月 ～ 3 月	(1)病虫害防除に関する技術情報誌の作 成・配布（チーム会 1～3 月） 果樹経営支援事業活用による新植・改植 の事業事後調査・申請説明（個別 1～3 月） (2)せん定技術習得 3 回（講習会 1～2 月土佐山地区、鏡地区、行川地区） 苗定植技術習得（講習会 3 月）	(1)次年度担い手募集について検討 （役員会、ユズチーム会 1～2 月） 新規就農予定者への支援（1～3 月） (2)「ゆずバトン隊」の広報（ユズだより 2 月） 「ゆずバトン隊」への技術習得 （剪定研修 2 月）